

2025.5
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

5号

第47巻
No.430



ポドフィルム *Podophyllum peltatum* L.

(メギ科 *Berberidaceae*)

生 薬 ポドフィルム根 秋または冬に掘り起こし、陽乾する。

成 分 リグナン：podophyllotoxin, desoxypodophyllotoxin, α -peltatin, β -peltatin, α -peltatin glucoside, picropodophyllin 等。

効 能 北米の先住民は催吐剤、下剤として使用した。抽出した樹脂を瀉下剤として用いたが、毒性が強く、現在は用いない。抗悪性腫瘍剤エトポシドは podophyllotoxin の誘導体。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



ポドフィルムは珍しい植物ですが、多くの大学の薬草園によく植えられています。主成分のpodophyllotoxinから誘導体エトポシドが1966年に初めて合成され、1987年には肺小細胞癌、悪性リンパ腫、急性白血病、睾丸腫瘍、膀胱癌、絨毛絨性疾患の効能・効果が認められたことにより、よく使われた植物由来の抗癌剤です。今でも小細胞肺癌などには使われているようです。

アメリカの東部およびカナダの南東部の森や野原、牧草地などに自生、または栽培される多年草であり、葉が大きな楕状で6－8浅裂することからアメリカハッカレン（八角蓮）の別名があります。根茎は長く横走して繁茂し、根茎の先端部から一茎を出し、しばしば群落を形成します。高さは30－50cmの茎から左右に2枚の葉を頂生します。楕状円形で5－7中裂し、さらに先端が2つに浅く裂ける葉に特徴があり、属学名の*Podophyllum* はギリシャ語のpodos（足）とphyllon（葉）の合成語で足状のというより葉掌状の葉に由来します。種小名*peltatum*（楕状の）も同様です。5－6月に葉の下に白い6弁花をやや下向きに単生します。果実はリンゴ形で、熟すと黄色く小さなレ몬の大きさになります。ポドフィルムは全草有毒ですが、良く熟した果実のみ食用になり、メイアップルと呼ばれています。その味はイチゴとメロンを組み合わせたような味がすると言われていますが、大量に摂取すると危険です。また別名をアメリカンマンドレイクとも呼ばれ、未熟な果実は有毒ですから気をつけてください。

1928年以前はアメリカハッカレン（ポドフィルム）に近縁の植物を全てポドフィルム属（*Podophyllum*）に分類していましたが、北米原産のポドフィルムをポドフィルム属（*Podophyllum*）に分類し、カシミールからシッキムのヒマラヤや中国南西部に分布し、葉は楕形で掌状に3深裂、上向きに咲く白花を単性するヒマラヤハッカレン（*Sinopodophyllum emodi*）はシノポドフィルム属に、中国南部や台湾に分布する六角蓮（*Dysosma pleiantha*）はミヤオソウ属に分類され、太い根茎が横に這い、前年の茎が枯れた残基に一白が残り年々増え、葉は楕状円形で5－9浅裂、散形花序で暗紅色の花を5－8個下垂します。同じくミヤオソウ属に分類される八角蓮（*D.versipellis*）は長江流域に分布し、生薬名を「鬼臼」と言い、太い根茎部に白が並び、強く太いひげ根があります。葉は楕状または円形で5－9裂し、散形花序で深紅色の花を8－10個下垂します。その他、四川、雲南、貴州省に分布する川八角蓮（*D.veitchii*）、広東、広西省などに分布する毛八角蓮（*D.hispida*）、湖南省に分布する多花八角蓮（*D.aurantiocalis*）はミヤオソウ属に分類されています。

中国では薬効や成分が良く似ているミヤオソウ属植物を「鬼臼」の名で用いています。『神農本草経』（200－300頃）には「鬼臼 味辛、温、微温、有毒。山野に生ず。蠱毒（寄生虫疾患）鬼疰（肺結核）精物（ばけもの）を殺し、悪氣不祥（もののけ）を辟け、邪を逐い、百毒を解す」と、また『新修本草』（659）にも「鬼臼は深山岩石の陰に生ずる。葉は蓖麻（トウゴマ *Ricinus communis*）や重樓（ツクバネソウ属 *Paris*）などのようなもので、一本の茎が生えて茎の端に一枚の葉があり、また両岐のものもある。一年年に一本の茎が伸びて、その茎が枯れると一箇の臼になる。たとえば生えてから二十年経ても二十箇の臼があるわけだ。必ずしも九臼に限るわけではない。根の肉、皮の鬚いずれも射干に似ており、今俗間で用いるものは多く射干である。しかし江南地方からも別の物が売出されてくるが真物ではない。現に荊州の當陽縣（湖北省当陽県）、峽州の遠安県（湖北省遠安県）、襄州の荊山縣（湖北省南漳県西）の山中にいずれもあるが、極めて得難いものだ」と述べています。

（村上守一 記）